

令和 6 (2024) 年度 学校評価

※評価基準：A＝達成できた
 B＝おおむね達成できた
 C＝ある程度達成できたが改善が必要
 D＝達成できなかった
 （構成比は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。）

重点目標 1 安全・安心な学校づくり

部	関連する 重点目標	取組目標	取組方法	自己評価		保護者 アンケート	反省と課題及び改善策	
				A～D	集計結果			
生徒指導部	①安全管理の徹底と防災・安全教育の充実	（継続）・新規） ・児童生徒の登下校時及び休日中の事故等を未然に防ぐために、教職員や保護者への啓発を含めた指導体制を整え、児童生徒への指導の充実を図る。	1 年間を通して教職員による登下校の通学指導（スクールバス車中指導及びバス停巡回指導や単独通学生対象の駅指導、通学路立哨指導、ロータリー誘導等）を行う。 2 構内の入退やスクールバス待機時についてのルールを生徒指導日より等で丁寧に説明し、安全に誘導する（バス停巡回指導：5月、9月実施）。 3 無断外出時捜索訓練や不審者対応研修を実施し、緊急時の対応について具体的な知識・技能を学ぶ。 4 保護者会等における丁寧に説明や生徒指導だよりの発行、HPの掲載等を行うことで安全教育の啓発を行う。	B	A：68.4% B：31.6% C： % D： %	A：61.8% B：30.5% C：2.8% D：2.4% E：0.8%	反省・課題	・単独通学生に対し、年間を通して通学路の立哨指導等を行ってきたが、自転車と車との接触による交通事故が起きた際に、対応等に課題が残った。スクールバスについては、問題があった場合や特定の車両には定期的に車中指導とバス停指導を行った。 ・無断外出時捜索訓練、不審者対応研修、交通安全教室等の安全に関する行事については、すべて生徒指導日よりやHPに掲載し啓発を行うことができた。
		改善策	・単独通学生の対して交通安全教育については、立哨指導と合わせて交通安全講話等で事故にあった際の具体的なやりとりの方法を指導していく。スクールバスについては継続して車中指導とバス停指導を行うとともに乗車人数の均等化を図るためにコース変更等を検討する。 ・無断外出時捜索や不審者対応に関するマニュアル等を定期的に全教職員に周知をし、共有する。また引き続き安全に関する行事については保護者等に啓発していく。					
保健指導部	①安全管理の徹底と防災・安全教育の充実	（継続）・新規） ・災害時に、児童生徒が自ら身を守る態度や技術を獲得できるよう訓練を実施し、教職員が全ての児童生徒を速やかに避難させる協力体制の構築を図る。	1 初期対応訓練実態シートを活用した、年3回の初期対応訓練を実施する。 2 要介助児童生徒一覧と要介助児童生徒避難協力シートを作成し、対象と具体的な行動を明確にする。（医療的ケア対象児についても配慮が必要な児童生徒として扱い、災害時の対応について避難協力シートへ記載する） 3 残留者あり、行方不明者あり、放送機器使用不可の各状況での防災訓練や訓練後の振り返りを丁寧にを行い、課題や改善策を整理して、より実践的かつ実効的な取組になるよう努める。	B	A：57.0% B：42.1% C：0.9% D： %	A：64.8% B：30.0% C：2.4% D：0.8% E：2.0%	反省・課題	・実態シートをを回収制にしたことにより、各学級で確実な記録ができていた。記録を活用することで、教師が児童生徒の変容に気付いたり、次の目標を設定したりすることができるので、その環境設定を係で行うことができた。記録は学級担任が必要に応じて、引継ぎ資料として活用する予定である。児童生徒が自ら身を守る行動を身に付けるため、今後も取組を継続していく。 ・先生方の協力の下、要介助児童生徒一覧・避難協力シートを作成した。避難協力シート作成の際は、学年単位等で避難行動を検討し、実際のシミュレーションを行ってもらっている。学年単位等での避難の再確認は1月に行った（予定）。 ・全3回の訓練で、具体的取組に挙げた状況を想定し実施した。実施後、課題や改善策を整理することができた。
		改善策	・定期的な避難体制確認のため、防災訓練後の学年会等で反省や課題などを話し合う機会を年3回設定し、避難協力シートを活用した再確認を行う。 ・残留者あり、行方不明者あり、放送機器使用不可の各状況下の訓練で得た改善策を基に、よりスムーズで組織的な対応を教員間で共有していく。					

事務部	①安全管理の徹底と防災・安全教育の充実	(継続・新規)	1 安全点検等で報告のあった破損箇所や危険箇所について、緊急度等を勘案し、予算の範囲内で修繕等を実施する。 2 予算不足等により、直ちに実施出来ない箇所については、本庁と協議の上、早期の実施を検討する。	B	A : 57.9% B : 40.4% C : 1.8% D : %	A : 44.7% B : 36.6% C : 7.3% D : 0.4% E : 11.0%	反省・課題	・先生方からの報告による破損箇所や危険箇所については、速やかに修繕等を実施した。 ・安全衛生委員会で課題となった正門の夜間照明について対策を行った。 ・危険箇所等を確認し予防的な対応ができるよう、校舎内外の見回りを行ったが、具体的な対応を要する箇所の把握にはいたらなかった。
		・危険箇所の修繕、改善を実施する。					改善策	・先生方の安全点検の報告を受け、事務部では把握できない危険箇所等の修繕対応ができていない。学校全体でより質の高い安全点検を実施し、危険箇所の予防的な対応が可能となるよう、文部科学省作成の資料等を活用し点検の観点・手法等を先生方に周知したい。
保健指導部	②心身の健康を意識した保健・安全教育的充実	(継続・新規)	1 食物アレルギーのある児童生徒が給食を安全に食べられるよう出食する工夫に、机上の視覚支援（誰でもいつでも分かりやすく確認できる表示）を追加する。 2 非常勤講師、介護職員を含めた給食指導に関わる全職員に対し、食物アレルギーや食形態に関する注意事項及び表示の工夫について、各学部と連携しながらの研修や会議、資料配布による周知を図る。 3 季節の食材や食文化に関する給食献立の情報について、各学部で教師に周知し、食に関する指導の充実を呼び掛ける。 4 上記の取組に関する教職員アンケートを実施し、反省を踏まえての次年度の業務計画を作成する。	B	A : 73.7% B : 26.3% C : % D : %	A : 73.4% B : 21.3% C : 1.2% D : 0.4% E : 3.7%	反省・課題	・机上の視覚支援を対象の児童生徒全員に追加した。 ・非常勤講師、介護職員を含めた給食指導に関わる全職員に対し、本校の児童生徒に対する給食時の特別な支援やアレルギー対応の注意点を周知した。 ・6月の給食月間において、毎日の献立の情報について提示し、週1回以上、学級において児童生徒に食育の時間を設けてもらう取り組みを行った。教員へのアンケート（回収率71%）の結果は、週1回以上行えた割合は84%、週3回以上行えた割合は23%であった。また、2・3学期にもそれぞれ1週間、同様の取組を行い、異なる季節の献立についても児童生徒に紹介できる機会を設定した。
		・給食において、教職員が児童生徒に対し、安全で豊かな体験としての食に関する指導が行えるよう、体制の整備や情報共有の工夫を行う。					改善策	・安全で豊かな体験としての食に関する指導充実のため、今年度の取組を来年度も継続していく。
研修部	③児童生徒の人權や内面を尊重した指導支援の充実	(継続・新規)	1 以下の実践から、教員の児童生徒理解、指導力向上へ、更に児童生徒の自己肯定感の育成につなげる。 ①学校課題研究【研究係】 ・自活シートを活用した個に応じた支援(A・C) ・3つの視点の授業評価による授業改善(B) ・各学部のキャリア発達に応じた実践による人間関係形成能力・自己理解といった資質の育成(C) ②校内研修【現職教育係】 ・自活シート作成の研修・自立活動選択研修 ③研修・研究授業・授業研究会【基本研修係】【初任者研修係】 ・ファシリテーターを中心とする授業研究会	B	A : 57.0% B : 42.1% C : % D : 0.9%	A : 64.6% B : 30.5% C : 1.6% D : 1.2% E : 2.0%	反省・課題	①研究を日常につなげる実践の中で、自活シートを活用した個に応じた支援、評価シートによる授業改善等により、肯定的な言葉掛け、良さを認める等、適切な指導や支援の積み重ねで児童生徒意欲的な取組が増え、自己肯定感の高まりを実感できた。 ②校内研修を実施し、参加者の約8割が、自立活動や応用行動分析を活用した子どもへの対応についての理解を深めることができた。また、グループセッションにより、行動問題への具体的な対応への情報を得ることもできた。（アンケート結果より） ③初任者、5年目、中堅の研究授業では、児童生徒一人一人の意欲的な取組が見られ、授業研究会では、より適切な指導や支援について学ぶ機会となった。
		・学校課題研究や校内研修を通して、児童生徒の自己肯定感の育成を重視した取組の充実を図る。					改善策	①今後も児童生徒に関わる教員間での情報共有を確実にを行い個々に適切な指導・支援の実践につなげていく。 ②行動問題へのアドバイスを指導に生かし、児童生徒の成長や自己肯定感の育成につなげていく。 ③助言を日常の指導・支援の検討を重ね、児童生徒理解、児童生徒の自己肯定感の育成を図る。

学 習 指 導 部	③児童生徒の人権や内面を尊重した指導支援の充実	(継続 ・ 新規) ・教職員全体で子どもの人権に関する知識を深め、自己の言動の振り返りや内省する機会を定期的に設けることで、日々の指導支援の充実につなげられるようにする。	1 人権教育全体計画を作成し、学校全体で人権教育に取り組めるようにする。 2 校内人権教育週間において、日々の学習活動で行っている学習内容から道徳につながる指導支援を学部間で共有する。 3 人権教育研修内容を工夫し、テーマから学校教育現場につながる内容を話し合い共有する。 4 HP等を通して、子どもの自己肯定感や自己有用感を高められるような学習活動の様子等について発信する。	B	A : 55.3% B : 44.9% C : 0.9% D : %	A : 64.6% B : 30.5% C : 1.6% D : 1.2% E : 2.0%	反省・課題	1 人権教育全体計画を作成し周知することができた。 2 後期の人権教育週間において、指導で活用できる本や指導例などを共有するとともに、各学級等で取り組んだ内容を共有することができた。 3 学校の実態に応じた研修内容とし、「性の多様性」をテーマとした研修を実施した。研修後は各班の意見を共有し、今後の指導に活かすことができる研修となった。 4 HPを更新する際、人権・道徳的視点で学習を振り返り、人権・道徳的表現を意識するよう、各学部会で共有した。
		改善策	次年度以降も、研修を希望する人権についてのテーマを教員アンケートで収集し、実際の指導に有用な研修となるよう調整する。					
生 徒 指 導 部	③児童生徒の人権や内面を尊重した指導支援の充実	(継続 ・ 新規) ・児童生徒が自己肯定感や自己有用感を持てるように教育相談体制の充実を図る。	1 学部会等の情報共有で挙げた児童生徒について、Teamsを活用して教育相談係内で把握、共有し、必要に応じて学部主事、担任等と連携しながらケース会議等組織的な対応を行う。 2 いじめの情報共有シートについて、更新があった場合に全職員に情報提供を行うとともに、いじめの初期対応について（フロー図）定期的に周知し、確認する。 3 保護者対象の教育相談や高等部生徒対象の教育相談週間を実施し、児童生徒の諸課題の解決を図る。	B	A : 55.3% B : 44.9% C : 0.9% D : %	A : 64.6% B : 30.5% C : 1.6% D : 1.2% E : 2.0%	反省・課題	・学部会等で話の出た児童生徒について、教育相談係、養護教諭グループチャットを活用し、情報を共有することができた。 ・学期末にいい情報共有シートの記載状況、学期初めにいいの初期対応のフロー図を全教職員に周知することができた。 ・高等部生徒対象、保護者対象の教育相談を実施し、児童生徒や保護者の悩み等を関係教職員で共有して支援体制を整えることができた。
		改善策	・次年度もグループチャットを活用して教育相談係を中心に関係職員で児童生徒についての情報を共有し、ケース会議を開催する等課題解決に当たる。 ・引き続き学期ごとまたは必要に応じて速やかにいい情報を周知し、対応方法について定着を図る。					
小 学 部	③児童生徒の人権や内面を尊重した指導支援の充実	(継続 ・ 新規) ・児童への人権教育の指導と、教職員の児童の人権に配慮した指導支援の充実を図る。	1 人権教育の指導実践 ・校内人権週間や普段の活動場面を通して、人権感覚及び道徳性の育成を高める指導を実践する。 2 人権が守られた学級作り ・校内研修等を通して、児童の人権に配慮した指導支援について研修し、教職員の人権についての意識を高める。	B	A : 55.3% B : 44.9% C : 0.9% D : %	A : 64.6% B : 30.5% C : 1.6% D : 1.2% E : 2.0%	反省・課題	・12月の校内人権週間では、人権教育について児童達に分かりやすく伝えることができた。小学部のテーマである「自分や友達の良いところをみつけよう。」では、児童の実態に合わせて指導を行い、「友達に優しくすること」や「友達を褒めること」などを絵本や手本を見せることで実施することができた。また、高学年では「良いところ」＝「頑張ったところ」という意味で、児童達が自分のことを発表したり、友達を褒めたりすることができた。
		改善策	・人権週間だけではなく、図工の鑑賞で好きな友達の作品を発表したり、教師が児童達の良いところを褒めることを実践したりするなど、普段から人権を意識した指導を行っていく。					

中学部	③児童生徒の人権や内面を尊重した指導支援の充実	(継続 ・ 新規) ・ 生徒が学習場面で主体的に活動できる場面を増やす実践を行う。	1 学級担任・副担任による実態把握を行い、「生徒指導」又は「集団の育成」の観点を含んだ学級経営方針を立てる。 2 日々の学習活動で、生徒一人一人の実態に応じた分かりやすい環境の整備や、自分から行動できるような場面の設定を行う。 3 1学期、2学期末に評価の機会を設け、学級経営方針及び手立てを修正する。 4 学年だよりで保護者への啓発を行う。	B	A : 55.3% B : 44.9% C : 0.9% D : %	A : 64.6% B : 30.5% C : 1.6% D : 1.2% E : 2.0%	反省・課題 1 計画に準じて各学級ごとに、観点を含んだ学級経営方針を立てることができた。 2 個々の生徒の状況に応じた対応の仕方では指導を行ったり、生徒同士の関わりを大切にしたりして指導を行ったりすることで、行動面等について生徒が主体的に活動できる実践を行うことができた。 3 夏季休業中に学級経営方針実践報告会を実施した。他学級の実践を聞くことで、自身の指導の確認や2学期以降の実践を行う上で、指導の参考とすることができた。 4 第2回保護者会にて、学級経営方針実践報告会で出た実践内容を説明し、保護者に取組を紹介することができた。
							改善策 ・ 次年度も、学級経営方針実践報告会の場を設け、先生方の指導力向上の一助となるようにする。 ・ 2学期以降の実践でも、生徒が主体的に活動できるよう、学部会等に、学級経営方針を確認する場を設けて、各自で設定した目標を念頭に置いた実践を行えるようにする。
高等部	③児童生徒の人権や内面を尊重した指導支援の充実	(継続 ・ 新規) ・ 生徒一人一人の実態に配慮し、安心感のもと学校生活を送ることができるよう、組織的な指導の充実を図る。	1 一人一人の実態と配慮事項について教員間で共通理解を図り、指導方針や指導内容を明確にして取り組む。 2 職員研修や人権研修、学部会などを活用し、教員が自己の言動を振り返る機会を設けることで、人権意識を高める。 3 日々の様子や教育相談週間、学部集会を活用して、生徒の状況、困り感などを把握し、生徒指導部と連携しながら校内、外部の人材を活用して組織的に対応する。	B	A : 55.3% B : 44.9% C : 0.9% D : %	A : 64.6% B : 30.5% C : 1.6% D : 1.2% E : 2.0%	反省・課題 1 共通理解に関して、学年・作業班などかわる教員で実施する。年度初めの引継ぎを確実にできるよう、個人ファイルフォルダの管理を学年内で確認して取り組む。 2 職員研修や管理職による学部会での話により、定期的に行うことができた。 3 教育相談週間や日々の生徒の様子に関して生徒指導と連携のもと対応を行うことができた。
							改善策 1 年度初めの引継ぎ ・ 記録の保管（個人フォルダ・ファイルの整理）⇒学年で確認しながら取り組む。 2・3 継続して取り組む 3 学年や学部で対応について相談。ケース会議では、支援部なども連携がもてるとありがたい。

重点目標2 学習指導の充実

部	関連する 重点目標	取組目標	取組方法	自己評価		保護者 アンケート	反省と課題及び改善策	
				A～D	集計結果			
情報部	①ICTを活用した指導の充実	(継続)・新規)	1 教員に対して以下の点を実施することで、ICT活用指導力の向上につなげる。【情報教育係】 ・ICT支援員と連携し、教材の開発や資料収集を行う。 ・各学部で教材フォルダやインターネット上にある授業の実践例や学習教材を紹介する。 ・授業で利用できるアプリの使い方についての研修を実施する。 2 情報機器の管理、メンテナンスを行い不具合時の速やかな対応を行う。【情報視聴覚機器係】	B	A : 53.5% B : 44.7% C : 1.8% D : %	A : 48.2% B : 34.4% C : 4.9% D : 1.6% E : 10.9%	反省・課題	・学会や研修などで授業の実践事例や教材や教材フォルダ紹介を行った。活用したり学部で伝えたりすることができた。 ・情報機器の管理を定期的に行っていたが、点検が終わるまで時間が掛かる。情報機器の故障や一時的に不明になることが多い。
		・ICTを活用した学習環境の拡充を図る。					改善策	・学習指導部と連携し今後も継続して先生方が興味を持てるような教材の提供を行っていく ・先生方に呼びかけを行い情報機器管理の意思を高めていく。
研修部	②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続)・新規)	1 3つの視点(主・対・深)での授業評価を継続し、自立と社会参加に向けた資質の育成や、学びのつながりや広がりについて、教員の理解を深める。【研究係】 2 教育実践を推進するための人材育成(ファシリテーターの育成)を継続する。【基本研修係】【現職教育係】【初任者研修係】	B	A : 49.1% B : 49.1% C : 1.8% D : %	A : 58.5% B : 34.6% C : 3.3% D : 1.2% E : 2.4%	反省・課題	1 高等部では、作業学習での目指す姿の確認、実習の振り返りを中心としたキャリアパスポートの運用も行い、理解が深められてきた。小・中学部でも、キャリア発達について共有できるものがあるとよい。 2 課題研究、授業研究会等で多くの教員がファシリテーターの経験を積むことができた。
		・課題研究Cの実践を通して、キャリア教育の理解を深める。					改善策	1 キャリア発達について、各ブロックや学部等で具体的な目指す姿を決め、表示して教員が意識できるようにする。 2 基礎研修や課題研究を通して、ファシリテーター役を担う機会を設け、人材育成を推進していく。
学習指導部	②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続)・新規)	1 キャリア教育の視点を共有しながら課題研究がすすめられるようにする。 2 年間指導計画から家庭との連携が効果的と考えられる単元について確認し、該当する学年等で共有する。 3 生活に関わる学習活動の様子等を写真や動画で保護者と共有し、家庭との連携を深める。 4 個別の指導計画や支援計画において、指導・支援の方法を保護者と話し合いながらすすめられるようにする。	B	A : 53.5% B : 45.6% C : 0.9% D : %	A : 58.5% B : 34.6% C : 3.3% D : 1.2% E : 2.4%	反省・課題	1 キャリア教育の視点から、主体性に着目した課題研究B・Cを進めるに当たり、指導実践を行うことができた。 2 教科等部会の実施により、生活に関する指導や家庭との連携の有効性について協議し、学部内で共有することができた。 3 懇談等で学習の様子を動画や写真等で提示したりHPにおいても生活に関連する学習の記事を挙げたりすることができた。 4 個別の指導計画作成における記入例を作成し、提示できた。生活指導において事前の保護者アンケートを受けた入浴指導を学部間の関係職員と共有しながらすすめる取組を行うことができた。
		・キャリア教育における家庭とのつながりを意識した取組を促進する。					改善策	生活指導の在り方や、年間指導計画における生活指導と関連する単元の検証等をすすめていけるようにする。
進路指導部	②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続)・新規)	1 キャリアパスポートにとじこむ内容や時期、引継方法を整理し、児童生徒の振り返り学習や保護者懇談等での活用につなげる。 2 年度末には各学部でファイルしたものが適切か、更によりよい活用方法があるか振り返り次年度に引き継いでいく。	B	A : 53.5% B : 45.6% C : 0.9% D : %	A : 58.5% B : 34.6% C : 3.3% D : 1.2% E : 2.4%	反省・課題	1 学部ごとに提示について周知をしているが、振り返り学習の仕方や懇談時の提示方法など課題はある。 2 よりよい活用に向けて各学部からファイルするものが何が良いのかという提案をいただいている。
		キャリアパスポートのよりよい活用に向けて、進路指導部から各学部で運用しやすいように働きかける。					改善策	1 学部ごとに見本となるファイルを作成した。児童生徒の振り返り学習の仕方や懇談の提示方法について、よりよい活用ができるよう、周知徹底をしていく。 2 次年度さらによりよい活用に向けて、ファイルするものや提示方法について関係職員と検討していく。

小学部	②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続)・新規)	1 キャリア教育の理解 ・課題研究報告会や学年の検討会を通して、キャリア教育への理解を深める。 2 課題研究の取組の実践 ・各ブロックのテーマを基に、各学年対象児について授業評価シートを活用しながら実践を行う。 ・キャリア教育の視点と自立活動の視点を交えた検討会を実施する。	B	A : 49.1% B : 49.1% C : 1.8% D : %	A : 58.5% B : 34.6% C : 3.3% D : 1.2% E : 2.4%	反省・課題	・学会や課題研究会にて、充実した意見交換を通してキャリア教育の理解を深めることができた。 ・授業評価シートに記入した各教員の評価を基に、目標設定シートの自立活動の目標も意識しながら、話し合いと実践に活かすことができた。「コミュニケーションと報告」や「心理的安定と真面目に取り組む態度」など自立活動とキャリア教育の視点を交えながら検討することができた。
							改善策	・対象児童は限られてしまうので、他の児童の指導にも活かせるように、今後の課題研究の方向性を検討する。
中学部	②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続)・新規)	1 各作業班で生徒を抽出し、課題研究日に作業班で協議して自立活動目標設定シートを作成する。 2 授業を評価し、作業内容や手だて、学習教材の検討を行うなど、授業改善を行い、単元指導計画を見直す。 3 キャリア教育の視点が入った評価シートを活用して、授業評価を行う。 4 作業学習を授業参観日に当てて、実践についての啓発を行う。	B	A : 51.8% B : 46.5% C : 0.9% D : 0.9%	A : 58.5% B : 34.6% C : 3.3% D : 1.2% E : 2.4%	反省・課題	1 作業班ごとに対象生徒を1名抽出し、自立活動目標設定シートを作成することができた。9月や1月の校内実習に合わせて、3観点を意識した評価シートで授業評価を行うことができた。 2 同じく課題研究日に授業についても協議することができ、授業改善を行うことができた。 3 評価シートの活用については、2学期に実施することができた。 4 第2回保護者会にて、校内実習の授業参観を実施し、保護者に授業の様子を見ていただくことができた。
							改善策	・研修部や学部の研修係担当者から出される課題研究日に、実施内容に従って取組を進めることができた。次年度も研修部から提案される予定に従って研究を進めていくとともに、作業班ごとの会議等を設け、日々の作業学習や校内実習等の目標や手立てについて検討し、実践を進めるようにする。
高等部	②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続)・新規)	1 実習後の評価表を基に、ホームルーム時などに振り返りを行う。 2 懇談時にキャリアパスポートを用いて保護者と共有する。 3 実習での目標の立て方と振り返り、評価表とステップアップ表の活用や、懇談での保護者との確認などの流れについて進路指導部から情報発信し、教員間で共通理解のもと指導を進める。	B	A : 53.5% B : 45.6% C : 0.9% D : %	A : 58.5% B : 34.6% C : 3.3% D : 1.2% E : 2.4%	反省・課題	1 1学期実習終了後に実施。評価表の書き方など教員への周知面で課題があったが、随時確認しながら取り組んだ。 2 懇談前に進路より学年で周知し、2学期の懇談で実施することができた。 3 1学期校内実習前の課題研究日に作業班ごとで実施できた。また、懇談前など進路指導部より学年ごとに周知し、共通理解できるように取り組んだ。
							改善策	・教員の異動などもあるため、1学期実習前後、2学期懇談前など進路指導部と確認し、教員への周知、懇談時の保護者との共有が行えるよう継続して取り組んで行く。
訪問教育学級	②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続)・新規)	1 個々の自立活動の年間計画をもとにした授業実践を重ねる。 2 キャリア教育に関する研修会を行い、教員一人一人の意識を高める。 3 実践後の検討会を定期的に行い、内容の見直し教材の改善などを行う。	B	A : 60.5% B : 37.7% C : 0.9% D : 0.9%	A : 58.5% B : 34.6% C : 3.3% D : 1.2% E : 2.4%	反省・課題	・長期休暇等を活用して、個々の自立活動の年間計画の見直しや個々の課題に応じたスイッチ教材の研修や作成を行うことができた。 ・学会等の時間を活用してキャリア教育に関する研修会を行い、教員一人一人のキャリア教育に関する意識を高めることができた。
							改善策	・今年度取り組んだ個々の自立活動の年間指導計画を基にした活動報告を、次年度の授業実践に生かしていく。 ・教育実践や授業検討会を引き続き定期的に行い、教師一人一人の授業の質の向上を図っていく。

重点目標3 地域とともにある学校づくり

部	関連する 重点目標	取組目標	取組方法	自己評価		保護者 アンケート	反省と課題及び改善策	
				A～D	集計結果			
教務部	① 家庭や地域社会との連携	(継続 ・ 新規)	1 理解を深めていただく手立てとして、学校公開の在り方を検討し、実施する。 2 学校HPにおいて教務部に関する情報を積極的に紹介していく。	B	A : 69.3% B : 30.7% C : % D : %	A : 57.1% B : 35.2% C : 4.9% D : 0.4% E : 2.4%	反省・課題	1 今年度は放課後等デイサービス事業所を対象に実施し、28事業所54名の参覧があった。88%の参加者より参考になったとの声があった。 2 県立学校各校のHPを参考として掲載すべき内容を各係で検討し、おおむね骨格が整った。2学期中に掲載できなかったが、保護者等にとって有益な情報を発信すべく、年度内に情報部と調整し掲載していきたい。
		・ 地域、関係機関等に本校への理解を深めていただくための活動を検討し、実践していく。					改善策	1 次年度は近隣の方、生徒の進路先も合わせた形で実施するよう検討する。 2 今年度内に保護者等にとって有益な情報を、分かりやすく掲載できるよう情報部と調整し進めていきたい。
情報部	① 家庭や地域社会との連携	(継続 ・ 新規)	1 学校の教育方針や各学部の紹介を分かりやすく伝える。 2 各学部の授業や行事の様子を素早く伝える。 ・ 学部ごとに授業の様子や行事の写真や記事を更新し、最新情報を提供する。 ・ ICT教育の取組を保護者に周知し、理解を深める。	B	A : 69.3% B : 30.7% C : % D : %	A : 57.1% B : 35.2% C : 4.9% D : 0.4% E : 2.4%	反省・課題	・ 全体的にHPの改訂を行った。 ・ 昨年度に比べてHPの更新率は上がった。(特に各学部の学習の様子)
		・ HPの充実を図り、学校の情報を定期的に継続して発信していく。					改善策	・ 来年度も最新の記事が掲載するように先生方に呼びかけを行い依頼していく。 ・ タブレットPCを利用した学習の様子は必ず掲載するように依頼をしていく。 ・ HPの閲覧数が増えるように必要ところを見直していく。
渉外部	① 家庭や地域社会との連携	(継続) ・ 新規)	1 保護者のニーズに応じた活動の中で、保護者同士の親睦が深められるように、取組内容を整える。 2 保護者が主体となり、負担感の少ない充実した活動になるよう、運営のサポートを行う。 3 ホームページやお知らせなどで、保護者が求めている情報の発信、共有をする。	B	A : 62.3% B : 36.8% C : % D : 0.9%	A : 56.1% B : 35.0% C : 6.1% D : 0.4% E : 2.4%	反省・課題	1 保護者から挙がった声より、「ヘアカット講習会」や「冬のお楽しみ会の土曜日開催」等が実現でき、地域とのつながりのある活動ができた。反省・改善点を生かして継続していきたい。 2 PTA活動では、本部役員、理事をはじめ、当日ボランティアを含めて、多くの保護者の方の御協力で活動することができた。おおぞら会活動では、茶話会やおおぞら祭での即売活動等で横のつながり、縦のつながりに広げることができた。 3 活動の様子を、ホームページやたよりで在校生保護者や教職員に発信することができた。
		・ PTA活動やおおぞら会(卒業生と親の会)活動についての理解を深め、保護者同士や地域とのつながりのある活動ができるよう環境を整える。					改善策	・ 引き続き、参加や共感、支えにつながるような情報発信、共有ができるように内容や方法を工夫していく。 ・ 今後も保護者ができることを楽しみながら負担感なく活動に御協力いただけるように、体制を整えていきたい。

支援部	① 家庭や地域社会との連携	・特別支援学校のセンター的機能を強化し、地域のニーズに応じた指導や支援の充実を目指す。	1 早期教育相談「ひまわり」の取組の充実 ・早期教育相談を通して、地域の特別な教育的支援が必要な幼児や保護者の支援を行う ・相談を進める中で、必要に応じて市町への情報の提供を行い、適切な就学につなげる。 2 地域の学校等への相談支援 ・幼稚園や保育所、小中学校や高等学校からの要請に応じ、情報提供や助言を行う。	B	A : 62.3% B : 36.8% C : % D : 0.9%	A : 56.9% B : 33.7% C : 4.1% D : 0.4% E : 4.9%	反省・課題	1 昨年度からの継続が15名、新規が16名、計31名の相談を実施している。初回の相談の前後には市町の教育委員会や保健師さんと連絡をとり、情報提供や共通理解を図った。また、市町の教育支援委員会へも情報を提供し適切な就学に結びついた。 2 就学前の幼児施設には、市町教育支援委員会事前調査として25件ほど訪問し、その際に情報の提供や指導の助言等を行った。また、小学校から11件、中学校から1件の支援要請があり支援に伺った。本校への転学が適当なケースは、支援要請から本校体験とつなげ、スムーズな転学ができた。 引き続き支援学級での学びが適当であるケースでは、現在の学級が適切な学びの場であることを学校全体で理解していただけるような支援の方法が課題である。
							改善策	2 参考資料等を持参し示しながら、児童生徒に対する「指導内容」「支援方法」「学校環境」等を分かりやすく助言するようにする。また、市町教育委員会との連携を密にし、学校の状況等も良く聞きとっておく。
特別活動部	① 家庭や地域社会との連携	(継続・新規) ・地域の学校との交流及び共同学習や、地域の人々との交流活動を推進し、相互理解の促進を図る。	1 児童生徒や学校、地域の実態等に応じた交流活動を計画し、活動の充実を図る。 ・近隣の学校や児童生徒の居住地の学校とのより良い交流の方法を検討し、交流及び共同学習を計画的に取り組む。(交流及び共同学習推進事業の充実) 2 学校の取組について分かりやすく情報を発信する。 ・保護者や地域に向けて地域との交流活動の様子をHPや便りで具体的に知らせる機会を定期的に設ける。	B	A : 65.8% B : 32.5% C : 0.9% D : 0.9%	A : 56.9% B : 33.7% C : 4.1% D : 0.4% E : 4.9%	反省・課題	1 学校間交流については、各学部とも計画した交流を全て実施することができた。交流校にも事前学習に取り組んでもらい、本校の児童生徒の理解を図ったうえで実施することができた。居住地校交流については、家庭から希望のあった児童生徒の交流を実施できた。(小学校17名、中学校2名実施) 2 各取組の様子を校内に掲示したり、定期的にHPIにて発信したりしてきた。地域連携だより「国特タイムズ」(これまでに2回発行)については、国分寺地区及び桑地区に自治会回覧を行ったほか、2市2町の公民館等に掲示をするなどして、本校のことを広く知っていただく機会を設けた。3月には交流新聞「ふれあい」を教育機関等へ配布予定である。
							改善策	1 本校と交流校のニーズを確認し合い、よりよい方法について双方で検討を重ねていく。また、職員間で交流の目的を確認することで、活動の充実を図っていく。 2 地域連携だより「国特タイムズ」に取組の様子を分かりやすく示すとともに、HPや保護者一斉メールなどを活用していく。地域連携だよりの校外への掲示・回覧については、地域とのつながりを重視していけるように継続していく。
進路指導部	① 家庭や地域社会との連携	(継続・新規) ・保護者や地域の福祉施設、企業等との連携をより深め、進路指導の充実を図る。	1 保護者、地域に向けて進路指導に関する情報をホームページ(年10回程度)や進路便り(年4回程度)で発信して進路指導等の取組についての理解を深める。 2 地域の福祉施設や企業等に協力していただき、職員体験研修を実施し、研修で学んだことを児童生徒の支援や進路指導に活かす。 3 福祉施設や企業等の職員に、授業見学や生徒との関わりをもつ機会を設け、児童生徒理解を深めていただき、児童生徒の学習意欲向上に繋げる。	B	A : 69.3% B : 30.7% C : % D : %	A : 56.9% B : 33.7% C : 4.1% D : 0.4% E : 4.9%	反省・課題	1 HPでは「進路情報」→「外部からのお知らせ」を整備して、研修や催事等の情報発信を始めた。 2 約40名の参加があり、研修の成果として授業や懇談に活かすことができたというアンケート結果が多かった。 3 企業や福祉事業所からの校内見学や生徒との関わりの機会を設け、本校の理解を深めることができた。
							改善策	1 今後もHPで情報発信の充実を図る。 2 研修の成果を児童生徒の支援に活かすことと、参考になる研修報告は全職員に情報を共有していく。 3 引き続き授業見学の機会を設けていく。

支援部	②豊かな生活のための社会資源の活用	(継続・新規)	1 教職員や保護者に学校応援ボランティアの活動を広め、活動の充実を図る。 ・事前のメールや事後のHPで活動をお知らせする。 ・依頼しやすいようにボランティアの方に依頼する活動を、sCHoolWareで募集する。 2 下野市社会福祉ボランティアセンター等の外部資源を積極的に活用する。 ・各学部の要望に応じて、地域のボランティアの方を依頼し、教育活動の充実を図る	B	A : 62.3% B : 36.8% C : % D : 0.9%	A : 56.9% B : 33.7% C : 4.1% D : 0.4% E : 4.9%	反省・課題	1 HPやSchoolWareでの活動報告を毎回実施することができている。以前作成した「参加者の声」を年度末に配布する次年度のボランティアについての案内に掲載する予定。SchoolWareの会議室からの依頼が定着してきた。 2 特別活動部（地域連携係）とも連絡を取りながら、外部資源の活用を進めている。2学期は、中学部と渉外部で依頼をして来校していただいた。
		・保護者や地域の方の力を教育活動に生かし、児童生徒の学びの充実を図る。					改善策	・今年度新たに実施したことが多いので、分かりやすくまとめて、次年度に引き継ぐことができるようにする。
特別活動部	②豊かな生活のための社会資源の活用	(継続・新規)	1 地域の人材や施設等を生かした教育活動の充実を図る。 ・地域の方との関わりを深められるよう、校内外で体験的な学びを計画し実践する。 ・地域の方のニーズを把握する機会を設け、今後の教育活動に生かしていく。 2 地域の施設や行事等を活用し、児童生徒の居住地域との関係を深め、相互理解の促進を図る。 ・児童生徒の居住地(二市二町)の施設における作品開催やイベント等への参加を通して、地域社会との関わり経験し、主体的・対話的で深い学びへとつなげる。	B	A : 62.3% B : 36.8% C : % D : 0.9%	A : 56.9% B : 33.7% C : 4.1% D : 0.4% E : 4.9%	反省・課題	1 「地域をきれいにし隊」では、上野花園や各市町の施設、保護者の協力を得て植木鉢を地域に設置することができた。また、様々な施設への訪問・聞き取りを通して、児童生徒の活動の場を提供していただいたり、提案をいただいたりすることができた。 2 市内の常設展示のほか、児童生徒の居住地である二市二町で学校広報作品展を開催できた。また、地域のイベントに親子で参加したり、高等部音楽部が演奏に参加したりして、児童生徒が地域との関わりをもつことができた。
		・地域の方の力を教育活動に生かし、児童生徒の学びの充実を図る。					改善策	1 支援部(ボランティア係)と連携を図りながら、地域の方と関わりを深めていけるような教育活動を検討し、充実を図っていく。 2 各地域でのイベントについては、直接参加(出演)するものだけでなく、間接的に参加できるもの(掲示など)にも取り組み、地域への啓発と地域との相互理解を図れる機会を得られるようにする。また、地域から案内があったイベントについては、書面や一斉メールにて保護者へ通知し、参加を促していく。